

(1)「全日本選手権大会」出場資格変更

■現在の出場資格

- ①全日本選手権大会（前々年度）各階級3位以内入賞者
- ②全日本選手権大会（前年度）各階級3位以内入賞者
- ③全日本社会人選手権大会（前年度）社会人の部1位・2位入賞者
- ④全日本ジュニア選手権大会（当年度）高校生クラスの1位・2位入賞者
- ⑤全日本学生選手権大会（当年度）1位・2位入賞者
- ⑥東日本地区大会（当年度）各階級3位以内入賞者
- ⑦西日本地区大会（当年度）各階級3位以内入賞者
- ⑧当年度強化指定選手
- ⑨「開催地枠」地区大会・本戦大会の主管県協会の推薦選手 男女各1名

■変更後

- ①廃止
- ②変更無し
- ③「全日本社会人選手権大会」（前年度）社会人の部各階級3位以内
- ④「全日本ジュニア選手権大会」（当年度）高校生クラスの各階級3位以内
- ⑤「全日本学生選手権大会」（当年度）各階級3位以内
- ⑥⑦廃止
- ⑧当年度強化指定選手（参考選手含む）
- ⑨「開催地枠」地区大会・本戦大会の主管県協会の推薦選手 男女各1名
- ⑩（A）「県選手権大会」各階級1位・2位（*東京、大阪、愛知は3位以内）
（B）「県推薦選手」（県大会を実施しない場合）男女各1名

■理由

- ①ルール変更などもあり、実力査定においては期間が長いため
- ③④⑤東西の地域による差（階級差、人数差）が大きく、実力査定での予選大会になっていないため、全国大会の各カテゴリー（ジュニア、学生、社会人）の上位者に出場資格を多く与える（各階級2位まで⇒3位まで）。
- ⑥⑦上記の実力査定の理由に加え、参加者の減少による大会運営の赤字増大。
- ⑧実力査定的に、強化指定選手と実力が拮抗しているため参考選手も含む。
- ⑩・県大会に全日本大会出場権を与え、県大会のステイタスを高め競技大会への参加者増を目指す。
 - ・全都道府県での県大会開催を目指し、全日本大会を真の全国大会とする。
 - ・県大会の充実の先に国体種目化を目指す。

(2)「全日本ジュニア選手権大会」出場資格変更

■現在の出場資格

- ①全日本ジュニア選手権大会（前年度）各階級3位以内入賞者
- ②全日本ジュニア選手権大会東日本地区大会（当年度）各階級3位以内入賞者
- ③全日本ジュニア選手権大会西日本地区大会（当年度）各階級3位以内入賞者
- ④当年度強化指定選手
- ⑤「開催地枠」地区大会の推薦選手 男女各1名
- ⑥本戦大会の主管県協会の推薦選手 各カテゴリー一男女各1名
- ⑦全国少年少女選抜選手権大会（前年度）各階級3位以内入賞者

■変更後

- ①変更無し
- ②③廃止
- ④当年度強化指定選手（参考選手含む）
- ⑤「開催地枠」地区大会・本戦大会の主管県協会の推薦選手 男女各1名
- ⑥（A）「県選手権大会」各階級1位・2位（*東京、大阪、愛知は3位以内）
（B）「県推薦選手」（県大会を実施しない場合）各カテゴリー一男女各1名
- ⑦変更無し

■理由

- ②③
 - ・東西の地域による差（階級差、人数差）が大きく、実力査定での予選大会になっていないため。
 - ・ジュニア選手、指導者（セコンド）、保護者の遠方への遠征による交通費、宿泊費などの経費負担が大きい。
 - ・参加者の減少による大会運営の赤字増大。
- ⑧実力査定的に強化指定選手と実力が拮抗しているため参考選手も含む。
- ⑩・県大会に全日本大会出場権を与え、県大会のステイタスを高め参加者増を目指す。
 - ・全都道府県での県大会開催を目指し全日本大会を真の全国大会とする。
 - ・県大会の充実の先に国体種目化を目指す。
 - ・県（地域）での応援、表彰、マスコミ露出のアップ。